

支部探訪——函館 支部長 宇都宮和雄

例会作品に異変——野鳥の写真登場

渡り鳥の「がん」がテーブル上に飛び込んでくる。アカショウビン、カワセミ、フクロなど、川辺りなどで偶然出会った光景だ。ヒナに餌を与える親鳥など微笑ましく心が和んでくる。今までない作品が並ぶ。野鳥派の出現である。風景専門のネイチャーチームも負けじと、近郊の大沼公園の四季から、道外へと自然の光景を求めて足が伸びる。我が函館支部の伝統である、スナップ派は、地元道南の漁村、行事ものから、海峡を越え青森県のサクラの弘前うみねこの無島、この辺までが今までのテリトリーであったが、最近はだんだん南下し、都会の街（東京、横浜）へと何かあれこれと被写体に向って、感じたものにシャッターを切っている。雑誌の月例に応募して、クガンバッテク活動している女性会員三人組み（T・I・K）は、近い将来きっと雑誌の一ページを飾るだろうと、期待され



9月例会風景

査会員大和氏の選評が始まる。これ、だれの作品、ねらいは？画題から作品の意図を感じられない！この風景、構図にむり、…。上部をカットし下を出したならなど、なかなか手厳しい選評は入選まで続く。

地元コンテスト（港まつり、海の日、公募写真展）においても、我が支部会員はそれぞれのコンテストに上位を独占し、日々熱心に活動しているので、選考に見入る会員は真剣そのもの。

また、例会は情報の交換の場でもある。さて、支部最後の行事である、道展巡回展（支部展兼ねる）の十二月下旬の会期中に、「写真教室」「女性のつどい」学生の参加できる催しなどを開催したいと、目下役員会で検討、考案中であるが、何とか支部全員の協力で実現したい。

△青春とは心の若さである。信念と希望にあふれ、勇気のみちて、日々に新たな活動を続けられる限り、青春は永遠にその人のものである△ サムエル・ウルマンの詩より

役員会からのお知らせ

▽審査会員の支部派遣について

支部活動の活性化のため、審査会員の派遣旅費を補助しておりますが、本部への申請は一年から六ヵ月前となっています。

支部によつては、一ヵ月末満の申請が見受けられ、派遣審査員への事前旅費支給に支障が生じておりますので、申請期日の順守についてご協力お願いいたします。

申請書の提出先

〒047-0152 (2) 0134-54-4602
小樽市新光一丁目四三 滝野邦保

▽各役員の任務

企画委員会 武藤省吾・本郷正利・中野潤子・若林直樹（道新） 総務 本郷正利（総括） 中野芳生（新会員連絡） 滝野邦保（審査員派遣・年度賞） 太平博雄（記録） 会計 滝野邦保（収入） 阿部悦子（支出） 広報 森田稔（会報責任者） 中野潤子（ホームページ関係） 斎藤俊也（編集）

新審査会員

よろしくお願いします

今年、二名の方が新しく審査会員になりました。おふたりに抱負を語っていただきました。

審査会員
本谷内俊介審査会員
阿部 悅子

例会風景——熱氣あふれる会場

さて、ここは9月例会会場の道新3F会議室



最終審査風景

会員三十七名（男二十二名、女十五名）中、今月の参加者は二十六名で、出席率は七十%、出品された作品は七十点である。

始めに新会員の紹介があった。この方は十数年間世界遺産など海外での撮影を多くしてきた。我が支部の中にも、海外専門会員ともうべきメンバーがいるので、これからは野鳥派とともに異色の作品が多くなりそう。時代の流れと共に支部の例会作品も変貌するのだろう。

テーブル上に並んだ作品に会員は3枚、審査会員は5枚のカードを持ち、テーブルを回りながらいいしなとと思う作品にカードをおいて行く。テーブルを4～5回まわるうちに会員の視線は当然作品にくぎ付けになり、異常な熱気で体は汗ばんでくる。作品の上にカードがあるのが予選通過、その後、審査会員（大和氏、俵谷氏、吉江氏）による選考により、一席から三席、入选と決められていく。

ハイ順位が決まりました。今月の担当、審

この度、写真道展審査会員にご推挙いただき光榮に存ります。今後も好きな分野の撮影を続けたいと思っているところですが、同時に写真ならではの作品も深めてみたいとも思っております。また今後の道写協発展のために、微力ではありますが、尽力してまいりたいと思います。今後ともご指導宜しくお願いします。

この度、写真道展審査会員にご推挙いただき光榮に存ります。今後も好きな分野の撮影を続けたいと思っているところですが、同時に写真ならではの作品も深めてみたいとも思っております。また今後の道写協発展のために、微力ではありますが、尽力してまいりたいと思います。今後ともご指導宜しくお願いします。